

『臨床検査についてのイメージはいかがでしょう？』

こんにちは、臨床検査技師の佐藤です（天塩町民歴2年4か月）。当院の臨床検査について少しだけお話をさせていただきます。

臨床検査は、大きく2つに分けることができます。患者さんから採取されたもの（血液・尿・便・その他体液など）を検査する検体検査と直接患者さんに触れ検査する生理機能検査（心電図・聴力・肺機能・脳波・超音波等）があります。また、当院で測定することができない検査等は外部委託業者に依頼しています。

臨床検査データは迅速かつ正確に報告しなければならぬものです。検査室一同、努力しておりますが、検査の混み具合や検査項目によってお待ちいただく時間が長くなる場合がありますがご理解いただけますようお願いいたします。

当院では、診察前検査を行うことにより、迅速な診断による効果的な治療を皆様に受けていただき、重症度を知ることにより入院が必要なのかより高度な医療が必要なのかを判断することにより重症化を回避できます。また、当日中に検査結果を知ることにより診療回数や低減などが考えられ医療費削減になります。

診察前検査の目的は2通りあります。

1. 初診時の診察前検査
主にスクリーニングの検査、患者さんの全身状態を把握するため（どこに問題が隠れているのか不健康な部分を探し出す）の検査によりおおよそに把握することができ、さらに必要ならばその病気に特異的な検査項目の追加を行います（尿定性・血球数・肝機能・腎機能・血糖・感染症・心電図など）。

2. 再診時の診察前検査
患者さんの疾患はある程度把握されていますので、その疾患に敏感に反応する検査や経過観察に必要な検査（血糖・HbA1c・肝機能・腎機能・CRP）により治療効果が得られているのか確認することによりお薬を減らしたり、増やしたり、生活・食事の指導を行っています。

臨床検査は病気の発見・治療に貢献し良い医療を提供することで。その検査室の体制は臨床検査技師1名・アシスタント1名がターコイズブルーのユニホームで検査を行っています。気軽に声をかけてください。

これから寒い冬季に向い、今年

も流行すると思われるインフルエンザウイルス感染について

■検査のタイミングは何時
検査のタイミングは、症状が出てから12時間から48時間以内が有効です。発病してすぐに検査は陽性になりません。感染していてもウイルス量が少ないためです。陽性率が高くなるのは12時間後からです。高感度の検査法では6時間後から陽性になります。当院でも採用検討しています。

■なぜ48時間以内なのか
それは抗ウイルス薬が発病後48時間以内に服薬しなければいけないからです。ちなみに検査時間は10分ほどです。

■受診のタイミング
周囲への感染の問題もありますので、次の症状が急にあらわれたら受診を考えてください。「38℃以上の高熱・全身がダルイ・強い寒気を感じる・筋肉や関節が痛む頭痛がする。」（流行、地域該当している）病院へ電話して確認するのもよいのでは、

■インフルエンザ予防接種を受けていた場合
感染発症にも高熱にならず、風邪と似たような症状に感じることもあります。気になるようでしたら受診しましょう。
感染症が疑われるときの受診



はマスクを必ず着用してください。病気の時には免疫力が低下して感染者しやすい方が病院には集まっていますお互いに気を付けましょう。マスクの正しい方がわからない方は、病院スタッフ（検査技師でも可）にお尋ねください。

■やはり予防が一番
インフルエンザワクチン接種をして、手洗い、うがい、マスク、規則正しい生活、適度な休養を励行しましょう。
検査に関するご質問等ございましたらご遠慮なくご相談ください。